

## 生活介護の実践 —本人主体の関わり—

在宅支援課 あけぼの

介護福祉士 宮崎 博一

### 1. はじめに

理事長の理念にあるように障がい種別問わず在宅の方々の生活を支える、という中で当法人の成人部門の生活介護あけぼのでは、重症心身障がい者が現在100%の利用となっており、サービス・支援を行う上で御本人主体の関わりを行う為の基本的な意識・心構えなど成人部門での共有はもとより、他部署にも紹介し、楡の会全体が、どんなに障がいが高くても、心地よく自分の意思で生活できるようにと本報告を行いました。

### 2. 法人内の業務について

生活介護事業 あけぼのは、在宅支援課の事業であり、札幌市南区に18以上を対象とした成人の事業所として行っています。

通常生活介護の対象としては、障害支援区分が区分3以上、年齢が50歳以上の場合は障害支援区分が区分2にて利用できるとても対象範囲が広い事業になっていますが、あけぼのは、前段でも述べたように100%重症心身障害者の方（障がい支援区分6）が利用されており、1日スタッフ8名、看護師1名にて送迎・入浴・創作娯楽等活動・食事介助・医療的ケア・身体機能向上、生活等に関する相談・助言その他の日常生活を行う上での支援と、ご自身だけではなく合わせて家族支援も行っています。

当法人在宅支援課には、成人の事業所が楡本体の生活介護おおぞら。多機能型通所施設大地。南区 多機能型通所施設さうす。東区 地域共同作業所みずほ園と5事業所あり、それぞれを併用されている方もいらっしゃるため常に利用者さんの体調、支援内容、ご家庭の状況等密に情報交換を行い安定した一貫性のある支援・サービスを提供しています。

### 3. サービス・支援を行う上で大切にしていること

あけぼのでは、支援者は、黒子のような関わりを…と職員に伝えていますが、しかし、最近では黒子を目にする機会が少ないので若い人には伝わりにくいかもかもしれませんが、どのような関わりかという、前面に出ている主役の気持ちを考え慮り姿の见えない人として主役（利用者）を立てる存在と考えています。しかし、ここで勘違いしてはいけないのは決して、黒子が主役を動かしているのではないという事。見方が違うと、同じことをしていても認識・思いで意味も大きく違ってしまいます。あくまでも主役を立てる。介助場面例えば、職員は利用者の意思・判断をくみ取り表現しスマートに介助して本人が行ったと感じられるよう行うことが大切だと思ひ私たちは、『利用者主体の関わり』を大切にしています。

### 4. コミュニケーションのとり方

初めの部分にもありますが、あけぼのは重症心身障害者が100% 見学や面接の中でもコミュニケーションで難しさや疑問を感じる部分だと思ひます。実際の声として『そもそもこちらの言っている事がわかっているのか』『相手の言っている事、伝えようとしている事がわからない』など聞く事がありました。失礼とも思ひましたが、一方ではこの感想は今まで障がいの方と関わったことが無い方にとってみれば率直な意見ではないかと思ひました。しかし、職員として皆さんを理解し、コミュニケーションを深め、意思判断をくみ取りスマートに支援・介助できる楡の会職員になる為に次のように伝えていきます。『言葉や文化が違う外国に一人でいると思ってください』これは、私たちはいつも 自分の言葉（日本語）を使ってコミュニケーションをとるのが当たり前となつてしまい、自分のコミュニケーション方法を相手にも

普通として求めてしまいがちです。しかし、みなさん、それぞれのコミュニケーションツールを使って発信しており。その人の言葉 目や手 表情 で日本語ではない その人なりの言葉をあなたがキャッチし、理解できていないと伝えています。補足として、赤ちゃんが泣いたとき 私たちは「どうしたの?」「おなかすいた?」「おむつ汚れた?」「眠たい?」「遊んでほしいの?」相手を理解しようとこちらが努力しています。相手とコミュニケーションを取りながら、相手の言葉ではない色々なものを受け止めようとしている、このスタンスが重要と考えます。

## 5. 尊重

生活介護事業は、18才以上の方が利用しており。一人の大人としての関わりを大切にしています。①プライバシーを守ります。②御本人の意思・思いを大切にします。では、一人の大人としてという関わりとは、どのようなものでしょう。

あけぼのにて実際にあったエピソードを紹介します。～あけぼの昼食後の静養中 ホールで、一人の女性職員が笑いながら女性の利用者さんを指さし「〇〇さん 鼻くそ付いてるてるわー はははは～」私は、耳を疑いました。話した職員は女性40代。利用者さん女性30代 その職員は、通常の生活の中でも、自分の近い方にもそのような事を言うのでしょうか?利用者さんを軽視していたとしか思えません。又、気が抜けていたり、馴れで行っていることが利用者さんを傷つけていたり、尊重していない行動になっている可能性があります。なので、常に自分のいつもの言動を客観的に見つめ直事が大切になります。

## 6. サービス

福祉もサービス業です。※利用していただいて、お金をいただいている ※サービスを提供する側・受ける側の距離感 線引き ※呼び捨て あだ名 チャン付け は、しない。

## 7. 関わる方のことを決めつけない!!

『この人は、こういう人だ』『こういう性格』など決めつけて関わると、視野が狭くなり他の反応などに気付かなくなってしまう。又、新人や、他の人に支援内容を伝えるときに、先入観を与えてしまい、新しい発見を見つけられなくなってしまう。なので、かもしれない という視点で仮説を立てその仮説に対し検証を重ねていく作業が大切になります。

## 8. 選択・決定するということ

※御本人が、自分の意思で行動や物を選択・決定する。

※支援者は、御本人の意思をくみ取り、選択・決定をサポートする。

御本人との、コミュニケーションの中から、サインを見つけ『代弁』する、しっかりと小さなサインでも発見しようとするスタンス、その中から、本人の意思をくみ取ることがとても大事で意思決定支援と言えます。

では逆に代行決定とは、前提としてご本人は判断・決定はできないとして、他者が判断・決定を行う事であり、支援の中で本当に自分のサポートした選択・決定が代行決定になっていないか確認が必要で支援者が意思決定支援の意識を持っている 持っていないでは大きな違いが出ます。

## 9. まとめ

本発表では、生活介護の実践-利用者主体の関わり-として、利用者さんと関わる上での基本的な心構えを挙げました。この内容は、はじめの所にも記載しましたが、成人だけではなく他の事業にも共通することで、楡の会ブランド、療育士として大切な所ではないかと思いました。又、日々のルーティーンで抜け落ちてしまい雑になっていた自分を反省し、自分自身を常に客観的にみつめ直すと共に、個人としてフラットな自分を保っているか確認が必要と感じられました。